

育児サークルや親子イベント、アクティビティ等に
参加する保護者、運営団体へ向けた

With コロナ時代の 育児コミュニティ 参加・運営の手引

「With コロナ時代の育児コミュニティ 参加・運営の手引」策定委員会

令和3年9月3日版

(令和4年1月25日改訂)

■目次

1. はじめに
 - 1-1. 本手引書の使い方
 - 1-2. With コロナ時代の育児コミュニティのあり方
 - 1-3. 新型コロナウイルス感染症について
 - 1-4. 保護者へのメッセージ

2. コミュニティとの関わり方
 - 2-1. コミュニティの必要性
 - 2-2. 必ずリアルなコミュニティとも関わろう

3. イベント・コミュニティの参加者の感染症対策
 - 3-1. 基本的な対策
 - 3-2. 対策を取りつつも意識したい大事なこと

4. イベント・コミュニティ主催者の準備
 - 4-1. 基本的な対策
 - 4-2. 対策を取りつつも意識したい大事なこと

5. 妊娠中の方、乳幼児連れの方、支援が必要な方に配慮すること
 - 5-1. マスクの着用について等
 - 5-2. 授乳室・オムツ替えスペースでの対策
 - 5-3. 妊娠中の方への配慮
 - 5-4. 他、特別な事情を抱える方への配慮

6. イベント主催者の事前告知例

1. はじめに

1-1. 本手引書の使い方

本手引書で使われる「育児コミュニティ」は、以下のような団体や企業を意味します。

幼稚園・保育園、子どもプラザ、児童館、地域の子ども会、子育てサークル、ママ会、企業や団体による育児イベント、など（※主にオンラインではなくリアルの場合）

これらの育児コミュニティで、イベントや親子の集まり、交流のための催しなどを行う際に、**新型コロナウイルス感染症への対策を「安全・安心」という観点**からどう捉えればいいのか、参加者、運営側の両方に向けて分かりやすく伝えることが、本手引書の目的です。

- 子育て中の方が、育児コミュニティの場に参加するかどうか迷った際に読む
- 団体や企業がイベントを実施する際に、運営ルール作りの指針にする
- 育児コミュニティの運営スタッフへ、感染症対策の意識を共有するために配布する

主に上記のようなシーンで活用いただければと思います。

なお、本手引書に掲載している事項は、表紙に記載している日付時点での情報を元としています。本手引書も定期的に更新しますが、感染症に関する情報は日々アップデートされていくため、末尾の URL 一覧なども参考にいただきつつ、最新の情報も合わせて確認されるようお願いいたします。

(注) 本手引きの更新について

令和4年1月25日時点で、国内における新型コロナウイルスの感染状況は、オミクロン株（B.1.1.529 系統）への置き換わりが進んでおり、感染者数の増加に大きく関与しています。特に20代など若年層の感染が目立つ傾向にあり、該当する世代は注意が必要です。こうした状況の変化に合わせ、政府や各自治体からも、イベントなどを運営する際の留意事項が随時発信されています。本手引書と合わせ、そうした情報も参照の上、育児コミュニティを運営するようにしましょう。

【参考：令和4年1月7日時点での内閣府発表資料】

- 基本的対処方針に基づく催物の開催制限、施設の使用制限等に係る留意事項について
https://corona.go.jp/package/assets/pdf/jimurenraku_seigen_20220107.pdf
- イベント開催等における感染防止安全計画等の導入について
https://corona.go.jp/package/assets/pdf/jimu_event_kansenboushi_anzenkeikaku_20220107.pdf

1-2. With コロナ時代の育児コミュニティのあり方

現在、育児コミュニティが、コロナ禍で機能を失ったり、活動を制限されたりしています。感染拡大防止の観点からやむを得ない部分もありますが、感染に対する恐怖からくる過剰な反応により、必要以上の自粛や、活動の縮小・中止をしている例もみられます。

育児コミュニティは、子どもが健やかに成長し・学びを得ていくため、及び子育て中の保護者に安心を提供するために存在するものです。こうした機会を不用意に減らしてしまうのは好ましくありません。本手引書では、このWithコロナ時代に、育児コミュニティをどのように運営していけば良いのか、どのように感染症対策をとれば育児支援の場に参加できるのか、といった点を専門家や保育現場に携わる保育士の意見をもとに、具体的な指針として示します。

その前に、まず「新型コロナウイルス」にはどういった特徴があるのかを、知っておく必要があります。

1-3. 新型コロナウイルス感染症について

新型コロナウイルス感染症には様々な特徴がありますが、その中でも私たちに深く関わるものとして、以下の点が挙げられます。

- ① 高齢者や基礎疾患がある人は重症化リスクが高い
- ② 子どもは成人に比べて重症化しにくい
- ③ 欧米に比べてアジアの感染率は低い

(※2021年8月時点、総務省、厚生労働省、外務省、日本小児科学会のホームページより)

新型コロナウイルスは、ヒトの細胞にあるACE2という受容体を入口にして感染します。この受容体が子どもには少ないため、成人と比較して感染率が低く、統計上重症化率も低いという結果が出ています。

また、アジアでは、欧米のようなハグ、キスといった接触機会が少ないことも感染抑制に貢献しているようです（一部、インドなどの感染増加が報道されていますが、人口比では欧米と比較しても低い感染率となっています）。

感染は主に飛沫で起きるため、マスクの着用、こまめな手洗いや手指消毒、換気、密を避けるなどの行動が必要とされます。こうした基礎知識をもとに、育児コミュニティの現場状況に応じた感染症対策を講じていくことが大切です。

(注) 子どものワクチン接種について

5～11才の子どもの感染率が同年代人口の1～2%にとどまる中、酸素投与などを必要とする中等症例が散発的に見られるようになってきています。こうした状況に対し、日本小児科学会が示した子どものワクチン接種に関する考え方は、以下のようなものです(※一部抜粋)。

- 1) 基礎疾患のある子どもに接種する意義は高い。また、健康な子どもにも接種する意義がある。
- 2) 発症・重症化予防などのメリットと、副反応などのデメリットを考慮して接種を決め、接種の前・中・後に養育者による細やかな対応が必要。

また、同レポートでは、流行の長期化による行動制限が小児に与える影響が大きくなっている、とも述べています。こうした視点からも、必要以上の自粛は好ましくないと考えられます。

【参考：令和4年1月19日時点での日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会発表資料】

●5～11歳小児への新型コロナワクチン接種に対する考え方

http://www.jpeds.or.jp/uploads/files/20220119_5-11corona.pdf

1-4. 保護者へのメッセージ

●まずは正しい情報収集を

コロナ禍は日々状況が変化しています。同時に、多種多様なメディアが存在する現在では、情報が錯綜し、デマやフェイクニュースなども入り乱れて私たちの元に届きます。SNSなどの受動的なインプットだけに頼らず、以下のような基準で情報収集をする必要があります。

- ①客観的な視点で情報を届けている媒体である
- ②エビデンス(根拠)が示されている
- ③発信者が特定でき、それが信頼できる人物・団体である

これらの点をクリアできているか確認し、正しい情報収集を行いましょう。

●「安全」と「安心」について

国や医療機関などから出される対策は、私たちの「安全」を守るために示されているものです。この対策を過不足なく取った上で、さらにどこまでを求めるのかは自分の気持ち＝「安心」の問題になります。大切なのは、実現不可能な“ゼロリスク”を求めるのではなく、子どもを守りつつも「成長に必要なことは何か」を考えることです。集めた情報を元に、自分なりに判断・工夫をして対策を施しましょう。

例えば、外出の際には行先の感染症対策が十分か調べた上で行くかどうかを判断する、熱中症のリスクが高い場面では周囲の状況を見て問題なければマスクを外す、などと臨機応変に対応することが大切です。

●多様性を忘れずに

世の中では、感染への恐怖から過剰に反応する例が見られます。「マスク警察」「他県ナンバー狩り」などの問題も報道されましたが、これらの行動は「多様性」という感覚の欠如により起こるものです。

コロナ禍においては、基本的なルールを守っていれば、あとの行動は人それぞれです。その違いを否定するのは行き過ぎといえます。また、基本的なルールも日々変わる可能性があるものです。正確な知識をもとに、多様性も尊重した行動を心掛けましょう。

2. コミュニティとの関わり方

2-1. 育児コミュニティの必要性

●コミュニティの存在意義

育児コミュニティには、幼稚園・保育園、ママサークル・子ども会など地域の集まり、行政やNPO主導によるもの、育児支援企業が運営するものなど様々な種類があります。これらは個別に、あるいは相互に関わり合いながら、子育て中の親が必要としている支援の提供、子育てに関する知識の共有、悩みや不安を分かち合い解決に導く場として機能しています。同時に、子どもたちが社会に接する場としての役割も果たしており、親子の孤立を防ぎながら子どもたちの成長を社会全体で見守る場にもなっています。

●コロナ禍での子どもたち、親たち

長引く自粛生活が、子どもの心身に何らかの影響を及ぼすことは以前から指摘されています。懸念されるのは主に以下の点です。

- 日光を浴びる時間の不足
- 運動量の不足
- 生活リズムの乱れ
- ゲーム・スマホなどへの依存
- 社会性を育てる機会の減少

人は適度に日光を浴びないとビタミンDの生成ができず、骨が弱くなるなどの問題が起きます。運動も健康な体づくりには欠かせず、肥満の問題にも関わります。また、幼児期に規則正しい生活を送ることの重要性は言うまでもなく、ゲーム・スマホ依存の危険性は広く知られている通りです。

加えて、心の発達面で懸念されるのが「社会性」の問題です。社会性は、人と人との関わりの中で育まれるもの。その機会が少なくなれば、何らかの問題が生じるのも想像に難くありません。

子どもにとっては、何気ない遊びも命を育むことに繋がります。子どもの日常生活で、不要なものなどありません。本当にやむを得ない時以外に、これらの機会を奪ってはいけません。保護者に関しても、過剰な自粛、巣ごもり生活は精神衛生上の悪影響が懸念されます。

2-2. 必ずリアルなコミュニティとも関わろう

現在、育児コミュニティに代わるものとして、SNSやオンラインでのママ会などが活用されています。現実の子育て環境を補完するためのものとしては有用ですが、それだけでリアルコミュニティの役割を果たすことはできません。

このコロナ禍においては家庭内での女性に対する暴力が急増し、子どもの虐待、自殺者の増加も世界的に問題視されています。これらは、長引く巣ごもり生活や、他者とコミュニケーションをとる機会の減少などと密接に関連しているとも指摘されており、可能な範囲で社会との接点を持ち、子育ても風通し良くする工夫が必要です。

育児コミュニティは本来、人の集まりの中で悩みを語り合ったり、経験者のアドバイスを受けたりする中で、**「子育ては社会全体ですもの」という意識**を共有するためにあるもので、保護者にも子どもにも欠かせない場所です。そこには「共感」「傾聴」「社会との接点」「ストレスの発散」など様々な役割があります。安全の確保を行った上で、この大切な場所を継続して作っていきましょう。

3. イベント・コミュニティの参加者の感染症対策

3-1. 基本的な対策

ここまで述べてきた通り、育児コミュニティに参加する際には、子どもの健やかな育ちと安全を最優先しつつ、保護者の安心を確保することが大切です。

まずは、一般的に必要なとされている以下の対策の徹底が必要になります。

- 密集、密閉、密接を避ける
- 発熱など、体調に異常がみられる場合は参加を自粛する
- マスク着用を徹底する（着用する年齢の目安は項目5 - 1を参照）
- こまめな手洗い、手指の消毒
- マスクをしていない時は会話をできるだけ控える

これらに加え、各地域が呼びかける独自の感染症対策があるので、そうした情報も収集した上、当日は会場で決められているルールに沿って行動するようにしましょう。また、万が一訪問先で感染者が出た場合、自身が濃厚接触者であるかどうかを確認するために、厚生労働省が提供する新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）をインストールしておくことを推奨します。

一般的な集いやイベントなどにおける留意事項に加え、育児コミュニティで注意すべき点として、乳幼児のマスク着用や、授乳室・おむつ交換スペースでの感染症対策などが挙げられます。

項目5「妊娠中の方、乳幼児連れの方、支援が必要な方に配慮すること」を参照の上、各自で対策をとりつつ、コミュニティ運営者の示す方針に従って行動しましょう。

3-2. 対策を取りつつも意識したい大事なこと

コロナ禍での育児コミュニティ参加においては、「何を期待して参加するのか」という点を考えてみましょう。人が集まるところに漠然と足を運ぶのはリスクを高めやすく、「せっかく足を運んだのに思っていた内容と違った」というケースも同様で、得られるものはありません。「子どもが体を動かして遊べる」「育児の悩みを誰かと共有する」などと目的を整理して、コミュニティの場がその期待に応えてくれるのか考えてみるのが大切です。

同時に「会場の感染症対策はどのように行われているのか」といった情報を収集し、安心してコミュニティに参加できるのか検討した上で、足を運ぶかどうかを決めましょう。また、項目1 - 4でも触れた通り、基本的な対策を行ったら、それに続く「安心」の基準は人それぞれです。自分と異なる感覚の人を否定したりすることのないよう、多様性を受け入れつつ、お互いが気持ちよく過ごせるように配慮しましょう。

4. イベント・コミュニティ主催者の準備

4-1. 基本的な対策

●事前の体制構築

感染症対策で重要なのは、「水際対策」と「隔離」です。以下の体制を整えましょう。

【水際対策】準備段階において、開催エリアなどの感染状況を把握しておく。開催前には対策に関する周知を徹底し（※項目6の「イベント主催者の事前告知例」を参照）、感染の可能性がある人を受け入れないよう、会場入口で検温などの対策を行う。

※但し、ワクチン接種が参加条件となるのは、多様性を受け入れるという観点から好ましくないと、当委員会では考えています。

【隔離】万一感染者が出たことが分かったら事後でも追跡できるように、参加者の名前や連絡先を把握しておく。

●イベント運営時の留意点

まずは、一般的に必要なとされている以下の対策の徹底が必要です。

- 密集、密閉、密接を起こさない会場設営
- 当日の検温、体調不良の人の入場禁止
- 来場者・スタッフ共にマスク着用の徹底を指導
- アルコールなど、手指消毒ができる設備の配置
- 人が触れる部分を極力減らし、ドアノブ、スイッチ、椅子、手すりなどの高頻度接触部位はこまめな消毒を行う
- 飲食時には会話を控えるよう指導

これらをパンフレットに記載する、会場内の随所に掲出するなどして、全ての来場者が対策について認知できるようにしましょう。言うまでもなく、スタッフ全員の体調管理や、日頃の感染対策の徹底は必須です。

また、万が一会場で感染者が出た場合、来場者・スタッフとも自身が濃厚接触者であるかどうかを確認するために、厚生労働省が提供する新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）をインストールしておくことが推奨されます。来場者にも呼びかけをしましょう。

イベントなどでの感染症対策については、以下もご参照ください。

【内閣官房 業種ごとの感染拡大予防ガイドライン一覧】（※令和4年1月14日改訂）

<https://corona.go.jp/prevention/pdf/guideline.pdf?20210524>

4-2. 対策を取りつつも意識したい大事なこと

イベントの運営者には、参加者が参加するか・しないかを判断できる材料を事前に提供することが求められます。その判断基準は、「イベントの目的・意義」と「感染症対策の内容」です。

イベントの目的とは、例えば「子どもが思いきり体を動かせる場所を提供する」「育児グッズを紹介する」といったもので、意義は「子どもの健康をサポートし成長を促す」「子育て中のママの孤独を解消する」などが挙げられます。

こうした目的・意義と合わせて、会場で実施している感染症対策を具体的に列挙することで、参加者はそのイベントの魅力を探りつつ、「参加する上での「安全・安心」を確かめることができ、その両者を評価して参加するか・しないかを判断することができるのです。

上記と共に、運営者は会場の安全を確保するために、来場者に対して感染症対策の実施を求めなくてはなりません。来場前に身体の不調はないか、感染者との接触はなかったか、行政が県境をまたいでの移動について自粛要請している時に他県から参加しようとしていないか、といった点を確認し、来場時には基本的な対策を行ってから足を運んでいただくよう周知しましょう。

事前告知の例は項目6の「イベント主催者の事前告知例」に掲載しているので、ぜひ参考にしてください。

また、会場では感染症対策を実施するだけでなく、それをより効果的にするための告知に努めることも必要です。

手洗いや手指消毒のタイミング、使い捨て手袋の使用ルールの徹底、外したマスクの保管方法、ごみの廃棄場所などを明示し、来場者の誰もがすぐに理解して整然と行動できるような周知に努めましょう。

5. 妊娠中の方、乳幼児連れの方、支援が必要な方に配慮すること

5-1. 子どものマスク着用について

乳幼児のマスク着用は、窒息、熱中症、体調不良の原因になる危険性が指摘されています。日本小児科学会は「特に2才未満の子どもには十分な注意が必要」という見解です。客層や会場の状況もふまえて、以下のようなルールを設け、会場でも周知して来場者同士のトラブルなどが起きないように留意しましょう。

例)「4才以上のお子様はマスクの着用にご協力ください。3才以下のお子様、及び障がいのあるお子様はマスク必須ではありません。着用される場合は、保護者の方の十分な見守りをお願いします」

5-2. 授乳室・オムツ替えスペースでの対策

●授乳室

会場でのミルクの調乳を可とする場合、注意が必要なのがお湯の提供です。調乳用のお湯を入れたポットを用意する際には、使用者は手洗いもしくは手指の消毒をして、使用する度にポットの手を触れた部分を消毒する必要があります。これを漏れなく正確に実行するのは困難であるため、「調乳用のお湯は持参」を原則とするのが好ましいでしょう。

また、授乳室が密な空間にならないよう、プライバシーに留意した上で、パーテーション、換気扇、空調などを活用し、換気を徹底しつつソーシャルディスタンスを確保しましょう。

●おむつ交換スペース

新型コロナウイルスは便中に排泄されるため、排泄物の取扱いには十分な注意が必要です。会場のおむつ交換スペースでは、できる限り以下のような環境を整えましょう。

- 使い捨ての手袋、使い捨てのおむつ交換用シート（あるいはそれに類するもの）、廃棄用のビニール袋（レジ袋などでも代用可）を備える
- おむつ交換後は、使用済のおむつと手袋をシートでくるみ、ビニール袋に入れて密封し来場者が持ち帰る、もしくは密閉できるゴミ箱（例：蓋付きで内側にビニール袋をセットしたものなど・足踏み開閉式が推奨）に廃棄する
- おむつの交換後は、手洗い又は手指消毒を義務付ける
- 上記を全員が徹底できるよう、利用者に告知する

これらと同時に、授乳室と同様、換気とソーシャルディスタンスの確保も徹底しましょう。

5-3. 妊娠中の方への配慮

妊娠中の方の感染リスクは、まだ分かっていない部分が多い状況です。そうした中でも、母体と胎児両方への配慮が必要なので、現状では高齢者や基礎疾患がある方と同様、ハイリスクのグループとして考える必要があるでしょう。

同時に、妊婦の孤立も避けなくてはなりません。妊娠中に孤独感を抱えてしまうのは、精神的な落ち込みに繋がり、胎児にも悪影響を及ぼします。ハイリスクのグループとしての対応をしつつ、本人の希望も聞き入れながら、育児コミュニティができる範囲で受け入れていくよう努めましょう。

妊娠中の方も、コミュニティへの参加に不安がある場合などは、主治医に相談するようにしましょう。

5-4. 他、特別な事情を抱える方への配慮

障がいがある、疾病など身体的トラブルを抱えている、などの理由でマスクの着用が困難な方もいます。そうした方々に対してどのように対応するかは運営側の判断に委ねられます。例えば、以下のような対応が挙げられます。

- マスク着用を強制しない
- 事情のある方は例外として認め、来場者にもそうした方がいることを周知する
- 特別席を設けるなど、個別の対応をする

イベントの目的や意義と照らし合わせて、上記のような決まりを事前に決めておきましょう。

前述の通り、社会がこのような状況だからこそ、多様性を受け入れる環境づくりが大切です。差別や誤解、考え方の違いからくる摩擦などが生じないよう、運営側も参加者も留意しつつ、前向きな育児コミュニティの場を作っていきましょう。

6. イベント主催者の事前告知例

イベント開催前に、参加希望者に向けて告知する感染拡大防止対策の内容例を以下に示します。

まずは、イベントの概要と感染対策の内容を下記のような項目で記述しましょう。

- 対象年齢 参加者人数（定員） イベント活動内容 イベントの目的
具体的な感染対策

（例）会場：〇〇〇人収容できるホールを利用します。

活動：子どもたち同士の接触がありますが、セッション毎に手指消毒を行います。

授乳スペース：あり オムツ交換スペース：あり

いずれも感染対策をとっています。

※上記に加え、以下のような確認・徹底事項を記述しましょう。

■イベントに参加する前にご確認ください

以下A～Cのいずれかに該当する場合は、本イベントへの参加をご遠慮ください。

A：体調に何らかの異常がある

（例：平熱＋1度以上、または37.5度以上の発熱、せき・のどの痛み・倦怠感・味覚異常・嗅覚異常などの症状、その他体調にいつもと違う点が見られる）

B：同居する家族や身近な知人、職場の同僚などに、感染者・濃厚接触者・感染が疑われる人がいる

C：過去14日以内に政府から入国制限・入国後の観察期間を必要とされている国・地域などへの渡航、または当該国・地域などの在住者との濃厚接触がある

■イベント当日に徹底願います

当日は、以下の5点を守っていただくようお願いします。ご協力いただけない場合、途中退場を求められることがありますのでご注意ください。

①マスクなどの着用（3才以下の幼児、及び特別な事情のある方を除く）

②アルコールなどによるこまめな手指の消毒

③他の来場者、スタッフとのソーシャルディスタンスの確保

（最低1mを確保、目安は2m程度）

④会場における声援、掛け声、長時間の会話など、発声の自粛

⑤他、主催者・運営スタッフが決めた措置に従うこと

※感染対策の手袋の常時着用は非衛生的なため、ご遠慮ください。

■「With コロナ時代の育児コミュニティ 参加・運営の手引」策定委員会 メンバー

山梨大学大学院 総合研究部医学域基礎医学系社会医学講座 教授 山縣然太郎

国立成育医療研究センター 総合診療科診療部長 前川貴伸

港区立東麻布保育園 前園長 篠原より子

特定非営利活動法人ワーカーズコープ 東京南部事業本部 副本部長 加藤陽子

■発行元

株式会社エンファム [お問い合わせ先 : contact@l-ma.co.jp]

■参考資料

●厚生労働省 新型コロナウイルス感染症について

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

●厚生労働省 (2021年4月時点)新型コロナウイルス感染症の“いま”に関する11の知識

<https://www.mhlw.go.jp/content/000749530.pdf>

●厚生労働省 新型コロナウイルスに関するQ&A(一般の方向け)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00001.html

●厚生労働省 保育所等における新型コロナウイルスへの対応について(令和2年3月19日現在)

<https://www.mhlw.go.jp/content/11920000/000610568.pdf>

●厚生労働省 保育所等における新型コロナウイルス対応関連情報

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_09762.html

●内閣官房 業種ごとの感染拡大予防ガイドライン一覧

<https://corona.go.jp/prevention/pdf/guideline.pdf?20210524>

●内閣官房 新型コロナウイルス感染症対策

<https://corona.go.jp/prevention/>

●文部科学省 新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について

https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/index.html

●文部科学省 学校再開等に関するQ&A

https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00003.html

●文部科学省 新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言等を踏まえた小学校、中学校及び高等学校等における新型コロナウイルス感染症への対応に関する留意事項について(令和3年5月28日)

https://www.mext.go.jp/content/20210531-mxt_kouhou01-000004520_3.pdf

●文部科学省 新型コロナウイルス感染症に対応した持続的な学校運営のためのガイドライン

https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00049.html

●公益社団法人 日本小児科学会 新型コロナウイルス関連情報

http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=333

●公益財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

<https://youchien.com/>

●社会福祉法人 日本保育協会

<https://www.nippo.or.jp/>

●公益社団法人 全国公民館連合会

<https://www.kominkan.or.jp/>

●公益社団法人 日本青年会議所 祭り・イベント等開催に向けた感染拡大防止ガイドライン

<https://www.jaycee.or.jp/2021/guideline>

●一般社団法人 児童健全育成推進財団

<https://www.jidoukan.or.jp/info/news/5d794e7b298b>

●CDC(アメリカ疾病予防管理センター) Keep Children Healthy during the COVID-19 Pandemic

<https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/daily-life-coping/children.html>

●ほか、全国各自治体のWebサイト等